



【 令和6年度 香美町おいしいお米コンテスト 】

今年度も令和6年11月30日(土)に香住文化会館にて、令和6年度香美町おいしいお米コンテストが行われました。

今年度は76点の応募があり、1次審査(食味値)、2次審査(味度値)、最終審査(官能食味)が厳正に行われ、7名の方が見事受賞されました。おめでとうございます。

表彰者

- ◎最優秀賞(香美町長賞) 東垣 典雄さん(村岡区耀山)
- ◎優秀賞(但馬県民局長賞) 白岩 寧さん(村岡区福岡)
- ◎優秀賞(たじま農業協同組合長賞) ... 田中 裕子さん(村岡区板仕野)
- ◎優良賞(香美町議会議長賞) 田中 徳人さん(小代区神水)
- ◎優良賞(香美町農業委員会長賞) (香住区) 岡 哲雄さん(香住区森)
- (村岡区) 大西 英剛さん(村岡区日影)
- (小代区) 田中 憲二さん(小代区神水)

(写真)前列左から：田中憲二さん、岡 哲雄さん、田中裕子さん、東垣典雄さん、白岩 寧さん、田中徳人さん、大西英剛さん

本号の主な記事

- ◆頑張っている農家の皆さんの声 P2～3
- ◆農業委員会活動報告 P4
- ◆農業者年金のPR P5
- ◆シリーズその② 我が村の自慢 P6
- ◆編集後記 P6

頑張っている 農家の皆さんの声



「香住梨の明日」

香住区隼人

田門 健太さん

私が、ミノフ高原で家族と梨を作り始めてから、19年経ちました。鳥取県の農業大学を卒業して、そのまま就農しました。家業を継いだことになりました。農業は辛い仕事と言われます。実際、つらいことも多々あります。



それでも続けようと思えるのは、同じくらい楽しいと思えることがあるからです。それは果実の収穫だったり、収入が上がるだけでなく、いろいろな人との交流です。私は地域との交流の中で、「香住の梨」が自分の思っているように皆様に愛されていることを感じ、素晴らしい名産品であると自信を持ちました。

梨農家が減り高齢化していく中、若手や新規の農家を確保するためにこの「香住梨」の魅力を伝えられるよう、さらに努力していきたいです。梨の学校という新しい事業も始めました。今まで衰退していくだけだった産地に、新しい風が吹いて上昇していくことを望んでいます。

最近では、農業に興味を持つ方も増えているようです。梨を生産する仲間を増やして、今までは出来なかったような

いろいろな楽しいことや先進的なことがしてみたいです。香住で梨を生産し始めてから、2030年で100周年になります。もうすぐですが、その時には「香住の梨は素晴らしい未来がある」と皆様に思ってもらいたいです。

当初は、トラクター作業、コンバイン作業、籾摺り、精米のみの作業受託事業でした。しかし、米作りに携わる方々の作業や大型作業機械の購入・管理などの営農経費の軽減を図るため、作業所を設置し、田植え機、乾燥機等を順次整備し、現在に至っています。

「長板営農組合の取り組み」

村岡区長板

中村 治さん

長板営農組合は、昭和52年より活動しております。

営農組合を利用して39名から、令和3年で25名まで減少しています。しかし受託作業面積は、平成19年の16.7haから令和3年の16.3haと殆ど減少しておらず、営農組合が地域農業の中心的な役割を果たしているといえます。

しかしながら、営農組合の取組は、決して順調だったわけではありません。当初より、活動役員（作業オペレーター）の数は、年と共に推移しておりましたが、令和3年の4月の段階で、トラクター、田植え機、コンバイン等の

オペレーターが、高齢化などに伴い実質2名まで減少しました。実際、委託された田植え作業は、ほぼ1人のオペレーターで終わることとなりました。

厳しい状況でした。そこで、6月にそれぞれが従事する仕事が見みの日だけ米作りに関わっている集落内の若手後継者に、営農組合の活動役員として活動してもらえるよう声をかけました。

その結果、若手のみなさんから、「できる範囲で参加します。」という返事をもらい、14名の活動役員で運営できるようになりました。その後、若手活動役員の大型特殊免許取得への補助、オペレーター代の増額、作業機械の新調などを行い、今年度も無事作業を終えることができました。

や野菜作りのノウハウを教えることができた。また、体力的に厳しいベテラン役員の農作業を若手役員が手助けしたりと、本来の営農組合の活動以外にも、集落の農業を継続する流れが新たに生まれてきているように思われます。

以上が、営農組合の取り組みですが、将来の課題として今の若手農業従事者が、ベテランとなっていたときの問題です。どこの地区でも抱えている過疎化の問題により、活動役員の確保が難しくなっていくことが考えられます。

その解消のためには、現在1つの地区の営農組合活動ですが、その取り組みを、近隣の地区に広げて、活動役員の確保をしていかなければならないかもしれません。

もちろん、まずは地域の農業を廃れさせないためにも、今の営農組合で活動している我々の姿

今後の私の仕事

小代区神水

毛戸 誠さん

現在の畜産は、新陳代謝が進んでいると言っていると思います。

我々65歳以上がリタイアしていったら、若手で意欲満々の皆さんが新規に台頭し、考え方も新しく合理性にとんでおります。

新時代を感じさせる中で、我々の世代のあり方を、考えてみると、体力はもちろん、思考回路にお

いても若手に遠く及ばないのが、悲しき現実であります。無論、将来への展望など年齢的に皆無です。何ができるか？何を思うか？今の私には若手に指導すべき技量はありません。ならば、日々出来ることをこなしつつ、何かを見つけていくしかありません。

老いたる身で、どれだけ畜産貢献ができるかわかりませんが、これが私の最期の仕事かと思えます。



は、米作りのベテランから若手まで、幅広い年齢層となっております。そのおかげで、若手役員は、ベテラン役員から、米作り



老後生活への備えは十分ですか？



老後の備えは 国民年金 ＋ 農業者年金！

■ 支払った保険料は
全額社会保険料控除の対象！

■ **運用益は非課税！**
そのほか生涯を通じて様々な税制面での優遇措置がある！

■ 農業経営の状況に応じて
保険料を増額し、節税額をアップ！

※農業者年金に加入できる方の要件は以下の通りです。

- ・年間60日以上農業に従事している方で、
- ・国民年金第1号被保険者（60歳未満）又は、
国民年金の任意加入者（60歳以上65歳未満）

※詳しくは、お近くの農業委員会、又はJAへ！



詳しくは… **農業者年金基金**

検索

<https://www.nounen.go.jp>

※標準委託料金表については、後日4月号広報にて、お知らせする予定です。

農業委員活動報告

「兵庫県農業会議発足70周年記念式典」

農業委員 小谷 直美

11月14日（木）、神戸市のラッセホールにて、開催された『兵庫県農業会議発足70周年記念式典』に出席してきました。

第1部は、記念表彰式というところで、長期勤続農業会議会員7名、長期勤続農業委員・農地利用最適化推進委員16名、長期勤続農業委員会事務局職員8名が、壇上にて表彰されました。香美町農業委員会からは、橋本幸長委員、前田精一委員、吉川正人委員の3名が表彰されました。誠にめでたうございます。今後も体調にご自愛の上、できる限りの活動の継続をよろしくお願い申し上げます。

第2部は、シンポジウムが開催されました。最初は、川瀬良子さんの特別トークでした。川瀬さんは、NHK「趣味の園芸やさいの時間」の司会をされていたり、ラジオ「KISS FM KOBÉ」にて日本の未来を元気にする農業応援プログラム「あぐりずむ」のパーソナリティーをされており、農作業との出会いと番組での経験から（苗の成長を見て食べて、楽しめる時間の経過と自然の

待遇）の楽しさと苦勞も知り、更に向上心もあり、今ではSNSの発信や農作業用具類のプロジェクトも手掛けていると、お話をされました。



次に、『明日に輝く兵庫の農業・農村』をテーマにパネルディスカッションが行われました。コーディネーターを務めた東京都農業会議会長の青山侑氏は、テーマについて、憲法の改正があり、

- ① 農地から宅地へと変更されたことによる農地の少量化
- ② 食糧安全保障・食料の自給率・自給力の地域計画
- ③ 農地を正式に認める都市計画

が農業の現場でどれだけ実質化されているのかが、まだまだ認識されていないのが事実ですと話されました。

パネリスト4名とのディスカッションでは、農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員を務める稲垣照哉氏が、兵庫県の印象について、山間地が多くて平地が少なく、担い手も65歳以上が8割である中で、多様な農産物の生産を頑張っておられると話されておりました。また、神戸大学名誉教授を務め、兵庫県有機研究会を設立して有機農業の学校や教室を開催されている安田茂氏は、「今朝は何を食べてきましたか？ご飯ですか？パンですか？」と問い、水田農業がもつと復活できるようにお米をもっとたくさん食べましょうと言われていることが印象に残りました。

ひょうご農業委員会女性ネットワーク会長で、豊岡市農業委員の6期目を務められている高尾利美氏は、近年の高温気候の影響でお米の等級落ちやカメムシ被害、鳥獣被害（鹿やクマなど）による野菜不良を訴え、食育活動として子供たちに農作業体験や料理教室、食力

ルタを使った遊びを計画的に活動していると話されていました。生活協同組合コープこうべの組合員理事である中野朋子氏は、消費者の立場で産地直結販売を地元生産者とのペアトレードや定期購入で米不足対策を話されていました。



我が村の 自慢

シリーズ
その22



前田周助顕彰碑

前田周助は旧美方町水間字猪の谷に生まれました。幼いころから、農作業をしていた中で牛に関心を持ち、牛飼いに励んだそうです。周助が33歳の時、養父市の家畜商が前田家を訪れ、周助の牛を見て取り引きを熱望したといひます。

それをきっかけに、周助は但馬牛市場へ上場することとなり、周助の牛は高く評価され、高値で取り引きされることとなったそうです。周助は、但馬牛の名声を広めるために、大阪まで牛を連れていったといわれています。

明治7年に亡くなるまで、自身の生涯を牛に捧げたといっても過言ではありません。周助は但馬牛の創始者であり、その功績は極めて偉大です。この偉大なる功績を、微力ながら同じ牛飼いとて引き継いでいきたいと思っています。

小代区神水 毛戸 誠

編集後記

今年も、香美町おいしいお米コンテストが開催されました。入賞された皆さん、おめでとうございます。

毎年顔触れが変わる中、コンスタントに入賞されている方は凄いなと思ひ、話を聞いてみると、やはりいろいろと試行錯誤しながらされているみたいで、今年は乾燥の仕方を変えてみたそうです。

私は基本同じやり方で作っていますが、今年は6か所の圃場で食味を測る機会があり、今までで最高点が出ました。しかし、最低点との差は12点もあり、場所によって数値もバラバラでした。田んぼによって差は出るものですが、少し差が大きすぎると感じています。

7年度産は、肥料のタイミングや量、穂肥、乾燥などを考えながら、どの圃場でもおいしいお米を目指して頑張つていこうと思ひます。

皆さんも、香美町おいしいお米コンテストを目指してチャレンジしてみませんか。

香美町農業委員会

情報部会長 岡田 久志